

浦臼のチカラ

第2号

※「浦臼のチカラ」は地域の紹介、交流の場として、住民の生活や住みかきなどを掲載しています。

○石塚 千鶴（いしづか ちづる）さん ○1953年生まれ
○浦臼町出身

浦臼町で生まれ育ち、結婚や子育てなど人生の節目を迎えながら、現在まで浦臼町で生活。高校卒業後は、建築業を営む実家で事務職として勤務する傍ら、民生委員として地域の子どもたちの見守りや支援にも携わり、地域に根差した活動を続けていた。

令和7年6月4日に、子どもから大人まで気軽に立ち寄れる「小さな駄菓子屋さん」を浦臼町内にオープン。世代を超えた交流の場として、多くの人に親しまれている。



お店を始めたきっかけ

駄菓子屋を開くことが、昔からの夢だったんです。子どもの頃、町内にまだ駄菓子屋があつて、バスを待つ間や学校帰りの学生、病院帰りの人たちなど自然と人が集まる場所になっていました。その様子がすごく好きで、そんな地域の憩いの場を自分でもつくってみたいという思いが、ずっと心の中にありました。

本日は60歳くらいの時に始めようと考えていましたが、仕事の関係やお店の準備等タイミングが合わず、やっとの思いで昨年、姉とともにこの店をオープンしました。

どんな駄菓子がありますか？

チョコレートやゼリーなどの甘いものから、おせんべいなどのしょっぱい系のものまで、約120種類の駄菓子を取りそろえています。

小学生にはグミが人気で、高学年から中学生くらいになるとカップ麺を選ぶ子どもたちが多いです。また、大人の方は「懐かしいな」と子どもの頃を思い出しながら駄菓子を手に取ることも多く、世代を

問わず楽しんでいただいていると思います。

どんなお客さんが多いですか？

昔なじみのお母さん方や子どもたち、町内の同世代の方など、地域の皆さんが多いですね。オープン当初に新聞や町長のフェイスブックで紹介されたからか、以前浦臼に住んでいて、現在は札幌や小樽など町外で暮らしている人たちも足を運んでくれるようになりました。静かに細々と続けていくつもりだったのに（笑）。

あとは、お盆やお正月に、お孫さんを連れて立ち寄る方もいますね。昔話に花を咲かせたり、少し寄り道して気軽に話ができたりする場所を、皆さんも求めていたんだなとしみじみ思います。



（カップラーメンのできあがりを待つ小・中学生たち）

嬉しかったこと、苦労したこと

店舗の経営、仕入れ、内部のレイアウトなどはこの歳になって初めてやることだったので、大変な時もありました。た

だ、「この場所ができて良かった」と町内のお年寄りの方から声をかけていただいたり子どもたちから「また来るからね」と言われたりした時が、とても嬉しい瞬間です。

また、小さい頃から成長を見守ってきた子どもたちが大きくなり、町外へ出ていく時に「おばちゃんのこと忘れないから」と声をかけてくれたことも、心に残る嬉しい出来事でした。

開店して一年が経ち、楽しくやりがいがあり、夢を捨てないで良かったなと思つてます。

今後浦臼町がどんな姿になってほしいか

先のことは分かりませんが、昔は企業もたくさんあつたし、農家も今よりずっと多くて、もっと活気があつたように思います。

鶴沼であつた「ワインの里フェスティバル」のように、町内外からたくさんの方が集まるイベントもあつて、とてもよかった。

今は町内に住んでいても、町外へ働きに出ている人が多くて、顔を合わせる機会が少なくなつたと感じます。だからこそ、もつ少し人が集まって、にぎわいのある町になってくれたら嬉しいですね。



防災コラム

第9号

【地震から身を守る】



防災マネージャー
おがた ひろや
尾方 博也

9月1日は「防災の日」です！

防災の日は、1923年9月1日に甚大な被害をもたらした「関東大震災」が由来です。

1959年9月26日の「伊勢湾台風」をきっかけに、1960年に制定されました。

先日には「令和8年熊本地震」が発生し、災害は「いつ・どこで」起こるか分かりません。

この機会に、今一度、防災について考えてみてはいかがでしょうか。

※地震が起こった際にどのような行動を取るべきかイメージしましょう！

①まず低く

地震の強い揺れによる転倒を防止するために、まず体勢を低くしましょう。

②頭を守り

固定された丈夫な机や椅子の下等の安全な場所に入り、頭を守りましょう。

③動かない

揺れが収まるまで、その場で動かずじっとしましょう。（揺れが数分続くこともあります）



まず低く



頭を守り



動かない

※日ごろからの備えを再確認しましょう！

①家具などの固定

地震の揺れで倒れそうな家具などを固定し、家具が倒れても通路を塞がないような配置にし、全スペースを作ったりしましょう。

②非常用持ち出し袋の準備

避難での生活に必要なものを持ち出し袋に詰め、いつでもすぐに持ち出せるように準備しておきましょう。（水・常備薬・靴・懐中電灯・小銭など）

③避難場所や避難経路の確認

避難場所や避難経路を事前に確認しておきましょう。また、災害が発生した際の連絡手段や集合場所を家族で話し合っておくことも大切です。



お問い合わせ：総務課交通防災係 電話：0125-68-2111